

令和３年度 社会福祉法人東御市社会福祉協議会事業報告

東御市社会福祉協議会では、第４期地域福祉活動計画で示した「人とひとが福祉でつながるまちづくり」～住民一人ひとりが尊重され、誰もが幸せを感じられる地域へ～の基本理念のもと、誰も排除しない地域共生社会の実現に向けた地域福祉事業を推進しました。

令和２年から拡大した新型コロナウイルス感染症の影響により経済の低迷が長期化するとともに、格差社会の拡大、少子化、核家族化など、地域課題は益々多様化し、様々な生活課題を抱える住民が増加しています。

東御市社会福祉協議会では、多様な生活課題を抱える住民の社会的孤立を防ぎ、誰もが社会参加できる地域づくりを進めるため、生活就労支援センター「まいさぼ東御」を中心に、総合相談体制の強化を図り、生活福祉資金の貸付事業や自立支援に係る相談支援事業、食料支援事業などに取り組みました。

また、地域住民や関係機関と連携・協働し、行政とパートナーシップを図りながら「人とひとが福祉でつながるまちづくり」を進めるため、地域のつながりを深める福祉活動に取り組みました。

令和３年４月から令和４年３月までの主な事業は、次のとおりです。

I. 組織運営の強化・人材育成

１. 法人組織の運営・体制の強化

(１) 理事会 (４回)

回数・開催日	人数	上 程 議 案
第 84 回 3. 6. 4 (金)	13 人	・ 令和２年度事業報告及び一般会計決算 ・ 居宅介護支援事業所運営規程の一部を改正する規程 ・ 評議員候補者の推薦について ・ 評議員会の開催について
第 85 回 3. 6. 23 (水)	12 人	・ 会長、副会長及び常務理事の選定について ・ 顧問の委嘱について ・ 評議員選任・解任委員会委員の選任
第 86 回 3. 12. 6 (月)	12 人	・ 令和３年度上期事業の概要並びに一般会計中間決算の状況について ・ 職員就業規則の一部を改正する規則 ・ 非常勤職員等に関する就業規則の一部を改正する規則 ・ 令和４年度事業計画について
第 87 回 4. 3. 16 (水)	12 人	・ 令和３年度一般会計補正予算 (第１号) ・ 令和４年度事業計画及び一般会計予算 ・ 評議員候補者の推薦について ・ 評議員会の開催について ・ 苦情解決第三者委員の委嘱について

(２) 評議員会 (４回)

回数・開催日	人数	上 程 議 案
第 52 回 3. 5. 7 (金)	21 人	・ 理事の選任について

第 53 回 3. 6. 23 (水)	17 人	・ 令和 2 年度事業報告及び一般会計決算 ・ 理事及び監事の選任
第 54 回 4. 3. 4 (金)	21 人	・ 理事の選任について
第 55 回 4. 3. 29 (火)	19 人	・ 令和 3 年度一般会計補正予算 (第 1 号) ・ 令和 4 年度事業計画及び一般活計予算

(3) 監 査

○税理士による会計指導

決算 令和 3 年 5 月 12 日 (水) 中間 令和 3 年 11 月 9 日 (火)

○監事による監査

決算監査 令和 3 年 5 月 19 日 (水) 中間監査 令和 3 年 11 月 15 日 (月)

(4) 支部長会

- ・期 日 令和 3 年 7 月 13 日 (水)
- ・場 所 中央公民館 2 階 講義室
- ・参加者 53 人
- ・内 容 ① 令和 3 年度 社会福祉協議会の会費募集について
② 令和 3 年度 赤い羽根共同募金の取り組みについて

(5) 法人内の連携

- ・各種プロジェクト (広報・福利厚生) の設置・推進
- ・グループウェアの導入で、情報共有を図る
- ・第 2 期社協発展・強化計画の推進

(6) 情報共有会議の開催

<部会> 1 回

○令和 3 年 7 月 20 日 (火)

東御市社協の総合相談体制について

2. 自主財源の確保

(1) 社会福祉協議会への寄付

ア. 金銭の寄付

個人 14 人	9 団体	総額 771,090 円
---------	------	--------------

イ. ウェス

個人 7 人	5 団体	合計 12 件
--------	------	---------

ウ. 物品の寄付

個人 34 人	3 団体	合計 37 件
---------	------	---------

介護用品		一般物品		
ポータブルトイレ 9 台	紙オムツ	肌着類	タオル	不織マスク
シャワーチェアー 2 台	紙パンツ	靴下	雑巾	石けん
車椅子 4 台	尿取りパット	ズボン	エプロン	カレンダー
シルバーカー 3 台	杖	ワイシャツ	毛布	生理用品
歩行器 1 台	介護食	起き上がりこぼし	ティッシュ	
食事用エプロン	おしり拭き			

(2) 社協会員の加入状況と会費の収納

年度	会員区分	一般会員	賛助会員	法人会員	合 計
令和3年 実績	人 数	6,062 人	704 人	161 法人	
	金 額	6,061,500 円	1,410,000 円	1,510,000 円	8,981,500 円
令和2年 実績	人 数	6,124 人	745 人	168 法人	
	金 額	6,124,000 円	1,492,000 円	1,565,000 円	9,181,000 円

3. 研修事業・人材育成

(1) 役員研修

① 信州ふっころフェスティバル（オンライン開催）

「第70回長野県社会福祉大会」「介護の日県民のつどい」併催

・期 日 令和3年11月13日（土）

・場 所 全プログラムを非対面型オンライン配信

・内 容 「地域共生スペシャルトーク」

阿部知事と各福祉分野の次世代リーダーが福祉の未来について語り合う
「ふっころコーナー」

ふっころプラン取組紹介など

「あんしん未来コーナー」

野外活動や軽スポーツを通じた参加支援によるあんしんづくりの取組紹介

※「くるme 子ども誰でも居場所」の取り組みが紹介されました。

「介護の日スペシャルトーク」

② 社会福祉トップセミナー

・期 日 令和3年9月15日（水）

・場 所 総合福祉センター（オンライン研修） 7人出席

・行政説明

「地域共生社会の実現に向けたこれまでの経過と背景にある理念

ー現場における実践の推進を図るためにー」

全国社会福祉協議会 副会長 古都 賢一 氏

<シンポジウム>

「未来の福祉のため、社会福祉法人のミッションを考える」

～社会福祉法人のミッションとは、社会福祉法人と社会福祉協議会の連携・協働
推進の意義や有効性とは～

○シンポジスト

社会福祉法人ふれあい 理事長 東 孝雄 氏
富士見町社会福祉協議会 事務局次長 小林 功 氏
長野県社会福祉協議会

○コメンテーター

全国社会福祉協議会 副会長 古都 賢一 氏

○コーディネーター

成城大学法学部 教授 打越 綾子 氏

(2) 職員研修

① 外部研修

安全運転管理者研修会、日常生活自立支援事業推進会議、
生活福祉資金担当者会議、権利擁護推進セミナー、福祉教育推進セミナー、
信州パーソナルサポート事業支援員研修会（県実施）、福祉教育実践研修、
生活困窮者自立支援制度人材養成研修（国実施）、地域づくり推進研修、
第8回生活困窮者自立支援全国研究交流大会、社会福祉士実習指導者講習会、
災害ボランティアセンター運営支援者研修会、災害時の連携を考える長野フォーラム、
上小地域医療・介護連携推進研究会、移動支援・外出支援を考えるフォーラム、
生活支援コーディネーター研修、生活支援コーディネーター研究協議会、
令和元年東日本台風復興フォーラム NAGANO、子どもが育つ地域共育フォーラム、
県ボッチャ協会審判講習会、災害ボランティアセンターの協働実践振り返りセミナー

② 上小ブロック役職員研修 中止

- ・期 日 令和4年3月4日（金）
- ・場 所 長和町和田コミュニティセンター
- ・内 容 研修会「トーク・フォークダンス」

(3) 実習生の受入

社会福祉士資格取得のための相談援助実習

長野大学3年 3人（夏季 令和3年8月13日～9月16日）

長野大学2年 3人（春季 令和4年3月22日～3月24日）

(4) 職員の講師・委員等の派遣

○生活困窮自立支援制度に係わる研修企画チーム構成員（令和3年4月～4年3月）1人

- ・オンライン会議、研修講師、研修ファシリテーター等 全8回

○上小圏域成年後見支援センター運営委員・小委員会委員 1人

- ・運営委員会 3回 ・小委員会 9回

○コミュニティにおけるソーシャルワーク力強化研修・長野 事例提供1人

- ・表 題 「ひとり親世帯の支援事例について」
- ・期 日 令和3年9月1日～令和3年9月3日
- ・対象者 社会福祉従事者 約80人

- 令和３年度長野大学相談援助実習指導Ⅰ講義 １人
 - ・期 日 令和３年１１月２日（火）
 - ・対象者 長野大学生 ２０人
- 令和３年度「福祉の仕事」社会福祉の現場(3)－貧困・低所得者の福祉－ １人
 - ・表 題 「生活困窮者自立支援事業の現場から」
 - ・期 日 令和３年１１月５日（金）
 - ・対象者 長野大学生 １年生 約１７０人
- 重層的支援体制構築推進人材養成研修・広報啓発事業 全国研修 １人
 - ・表 題 分野別研修：多機関協働事業者向け研修における多機関連携による支援のあり方
 - ・期 日 令和３年１２月２８日（火）・令和４年１月１４日（金）
 - ・対象者 多機関協働事業者 約７０人
- 多様な地域連携による就労支援：現状把握と活動評価のPDCA シンポジウム １人
 - ・表 題 まいさぼ東御「多様な地域連携による就労支援」の報告
 - ・期 日 令和４年３月２８日（月）
 - ・対象者 全国の生活困窮者自立相談支援機関・就労支援事業所等 約３００人
- その他
 - JA 共済総合研究所ヒアリング（生活困窮者自立相談支援の就労支援の取組み）
 - 東御市ケアマネット（権利擁護支援と身寄りのない人の問題）
 - 長野県社協主催 社会福祉法人間連携会議（くる me の協働企画の実践報告）
 - 視察受入：まいさぼ信州長野（生活困窮者自立相談支援の取組み）

4. 苦情対応

- (1) 苦情受付状況 苦情受付件数 ０件

5. 連絡調整事業

- (1) 福祉関係団体との連絡会議
 - ・期 日 令和３年 ４月 １９日（月） 福祉団体長会議
 - ・期 日 令和３年 ９月 ２７日（月） 障がい者福祉のつどい実行委員会
 - ・期 日 令和３年 １２月 ６日（月） 同 反省会
- (2) 民生児童委員協議会との協働
 - 地域福祉事業の周知・啓発・事業に関する協力
 - 福祉活動に対する助成金の交付
 - ・福祉委員（民生児童委員）活動費 ８１名 ４０５,０００円
 - ・生活福祉資金実費弁償 ７５名 ２２５,０００円
 - 理事会・地区民協定例会・全体会への出席
- (3) 社協法人会員の皆様へ社協事業に対する情報提供
 - 社協広報紙の送付

Ⅱ 総合相談、支援事業の推進

1. 生活困窮者自立支援事業

(1) 自立相談支援事業

東御市生活就労支援センター「まいさぼ東御」は、生活困窮者自立支援法に基づき、生活に困窮している方や、その恐れのある方の総合的な相談窓口を東御市から受託し運営しました。令和3年度は、前年度と比較して相談件数は下がったものの、新型コロナウイルス感染症の影響により、失業や収入減による新規相談が全体の約3割を占めました。令和3年度から開始したアウトリーチ支援事業では、引きこもりの当事者や自ら相談に繋がりにくい人の自宅等を訪問し、丁寧に関係性を築きながら、居場所・就労・社会参加に結びました。多様な生活課題の解決に向け、行政と事業者や市民をネットワーク化して、官民協働の地域づくりに取り組みました。

＜相談件数＞ ＊相談員：5人

	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
新規相談件数	95件	84件	71件	179件	110件
継続支援件数	延430件	延639件	延807件	延1,264件	延2,003件
プラン作成件数	45件	49件	59件	40件	36件
相談対応件数	延2,791回	延3,202回	延5,044回	延7,284回	延7,348回

＜新規相談件数の年齢構成＞

20歳未満	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上	不明	合計
2	19	20	19	20	20	7	3	110

＜法に基づく制度の利用＞

制度を利用した実件数（複数の制度利用あり）

制 度	件 数	左記の件数のうち 自立プラン作成の件数
住居確保給付金	29	7
就労準備支援事業	10	6
認定就労訓練事業	1	1
自立相談支援事業による就労支援	24	27
生活福祉資金等による貸付（特例貸付含む）	55	7
生活保護受給者等就労自立促進事業	11	11

＜プラン作成者の状況＞

状 況	件 数	状 況	件 数
経済的困窮	15	家計管理の課題	9
就職活動困難	10	生活習慣の乱れ	9
子育てについて	5	社会的孤立	8

家族関係・家族の問題	5	就職定着困難	6
ひとり親世帯	6	外国籍	1

<生活・就労支援に関する実績>

○就労者数

就労者数	製造	農業	小売	サービス	配送	福祉	食品	運輸
29 人	8	7	5	3	3	1	1	1

○プチバイト（就職活動応援金付職場体験事業）

体験者数	農業	製造	サービス
8 人	5	1	2

○緊急就労支援事業・東御市緊急就労支援事業助成金

新型コロナウイルス感染症の影響による失業者等を支援するため、支援対象者を2カ月以上雇用した事業所に対して、長野県社会福祉協議会から2カ月の賃金の2/3（上限192,000円）と、東御市から1/3（上限96,000円）を助成しました。

就労者数	農業	製造	食品	運輸	小売
14 人	8	3	1	1	1

○身元保証・就労支援事業

利用者数：2件、契約締結事業所：2件

○入居保証・生活支援事業

利用者数：4件、契約締結家主：3件

○生活改善支援事業

地域住民との協働活動支援事業：1件

<協力事業所登録・就労体験・見学>

（赤い羽根「新型コロナ感染下の福祉活動応援全国キャンペーン」助成）

職場見学・就労体験・プチバイト・認定就労訓練について協力する事業所を募り、登録票を提出の上、パンフレットにしました。

○協力企業数…26か所（令和2年度：23か所）

農業	医療・福祉	食品・製造	警備	環境整備	洗濯業	運輸
11	3	6	2	2	1	1

○協力内容（協力事業所以外の事業所も含む）

新型コロナウイルス感染症の影響により、積極的な活動は控えました。

自立相談支援による就労体験	プチバイト	職場見学
0	7	10

（2）家計改善支援事業

相談者が母子世帯や障がい者世帯で低収入、コロナによる離職、体調不良による離職、多額の債務、税金の滞納等、複合的な課題を抱える世帯の相談が多くありました。本事業で家計の

状態を把握して収支のバランスを一緒に確認し、貸付の利用、家計の見直し、債務整理につなぐ法律相談、滞納している税金の支払い等の同行支援・調整など、収入増の方法、支出減につながる助言や支援を行い、相談者の家計管理の意欲を引き出す支援を行いました。

<利用件数と利用による改善状況>

○利用件数（プラン作成件数） 10 件

○利用による改善の状況 （利用件数 10 件のうち、改善状況を、1 件につき複数カウント）

内 容	件数	内 容	件数
自身の家計の現状把握	7	将来の収支変化の見通し	2
家計管理の重要性の認識	4	自立意欲の向上・改善	3
支出費目の優先順位位置付け	2	生活習慣改善	3
家計の範囲内での支出	3	対人関係・家族関係の改善	1

（3）子どもの学習・生活支援事業

東御市教育委員会や、市民ボランティアとの連携で、支援ニーズが増え、利用者が増加しました。事業効果は、主に家庭環境の把握、不登校の改善等がありました。

<利用件数>

利用者数	実施日数	実施時間	支援員数
7 名	149 日	288 時間	10 名

<結果・改善状況>

支援結果・経過	件数
家庭生活習慣の習得	4
学校生活の定着	3
登校渋りの予防	2
自己有用感や自信をつける	2

（4）就労準備支援事業

今年度より、定期的な集団プログラムを開催しました。日常生活・社会生活・就労の自立の3つの観点から集団プログラムを企画し、プログラムに参加するだけではなく、参加者が興味のあること、やりたいことをプログラム化して開催しました。参加者も社会活動に参加する機会が少ない方が多く、本事業に参加をするなかで活動自体が居場所としての役割を果たすようになりました。

<実施状況> 令和3年5月～令和4年3月 22回 延83人

項目	数字	備考
実人数	13 名	単発参加は3名
仕事・生活サポーター	2 名	計25回参加
一般就労につながった参加者	2 名	就労体験を経て就職
体験就労につながった参加者	2 名	

<集団プログラム内容>

	開催日	参加者数	プログラム名 ★外部講師招聘
1	5月6日(木)	1	「自分の1日を振り返ろう」
2	5月20日(木)	3	「コラージュで自己発見」
3	6月3日(木)	4	ことだまカフェ「世界にひとつ、オリジナル言葉集をつくろう」★
4	6月17日(木)	4	SST体験「対人コミュニケーションスキルを磨こう」
5	7月1日(木)	3	市民サポーターによるお話会「今を生きる」★
6	7月15日(木)	4	自分発見「エゴグラム&アサーション」
7	8月5日(木)	4	くるmeeting「今後のくるme 作戦会議」
8	8月19日(木)	3	「知って得するハローワークの基礎知識&活用術」★
9	9月16日(木)	3	表現を楽しむ会「一智段結！1枚の紙に自分の想いをのせてみよう」★
10	9月30日(木)	5	「就労へのファーストステップ 応募書類編」★
11	10月7日(木)	3	「免疫力アップ！自宅でできるセルフケア術を学ぼう！」★
12	10月20日(水)	3	「職場で役立つコミュニケーション練習」
13	11月2日(火)	4	アートコミュニケーション★
14	11月16日(火)	3	お話会「私の体験談 ～継続したから今がある～」★
15	12月2日(木)	5	職場見学会「見て 聞いて 感じて 私のはたらく姿」★
16	12月16日(木)	5	クリスマスイベント「あたたか会」
17	1月6日(木)	5	新年会「描こう私の未来」
18	1月20日(木)	4	「選ばれる人になろう！ 実践で役立つビジネスマナー」
19	2月3日(木)	2	「セルフチェックシートで私を見える化！？してみませんか？」
20	2月17日(木)	2	「正しく情報を得よう！ ネットの活用方法！！」
21	3月3日(木)	7	「ストレッチ&ステップで心と身体を整えよう♪」★
22	3月17日(木)	6	年度修了式

(5) アウトリーチ支援事業

今年度から新規事業として、地域のなかで困りごとを抱えているが支援機関等に繋がっていない、社会的孤立の状態である方を対象に訪問支援等を行いました。初期相談の中では本人に繋がる前段階での家族支援から支援を行っています。

<利用件数>

年代	20歳未満	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	合計
男	1	4	1	5	6	1	18
女	2	0	1	0	0	0	3

<支援状況>

本人と面談	家族支援	関係者との共有	就労・中断
8	9	1	2

(6) 会議・研修等

支援調整会議 12回 研修・会議 36回 事業周知活動・講演（講師派遣）18回

2. 日常生活自立支援事業

高齢者や障がいがあり判断能力が不十分な方々にとっても、東御市で安心して自立した生活が送れるように、福祉サービスの利用に関わる相談などの援助を行いました。

専門員：4人 生活支援員：5人

(1) 相談件数 延 2,097 件（新規・既契約含む）

専門員訪問調査回数	利用援助回数	ケース検討会議	書類等預かり件数
延 317 回	延 642 回	延 34 回	21 人 81 件

(2) 実利用者数 24 人

	認知症	知的障がい者	精神障がい者	その他	合 計
新規	2	0	1	0	3
解約	1	0	1	0	2
総件数	6	7	6	5	24

*新規契約件数 3 件、解約件数 2 件（うち成年後見制度移行件数 0 件）

*契約者実数 22 件(令和 4 年 3 月 31 日現在)

(3) 専門員・支援員利用援助回数 延 642 回

(4) 金銭管理、財産保全サービス事業(市社協扱い)

実利用者数 2 人(解約 1 件：成年後見制度移行)

*契約者実数 1 件(令和 4 年 3 月 31 日現在)

3. 生活困難・困窮者への支援

(1) 生活支援の貸付相談件数 延 664 件

(2) 生活資金貸付総件数 (市社協扱い)

◆生活資金（助け合い資金） 24 件 404,000 円

(3) 生活福祉資金貸付件数 (県社協扱い)

コロナ禍において、就職が決まり働き始めたが、給料日までの生活費が足りない、また、進学するための学費を借りたいなどの貸付相談が例年より多くありました。

◆福祉資金 6 件 667,000 円

◆教育支援資金 4 件 5,537,000 円

(4) 生活福祉資金特例貸付（県社協扱い）

新型コロナウイルス感染症の影響が長期化するに伴い、休業や失業等により生活資金が不足している世帯を対象に特例貸付を実施しました。また、多様な生活課題に対して、まいさぼ東御と連携を図り、食料支援や生活の立て直しに向けた支援を行いました。

ア) 各制度の貸付要件

	生活福祉資金貸付制度（特例措置）	
	緊急小口資金	総合支援資金
貸付対象者	新型コロナウイルス感染症の影響を受け、休業等により収入の減少があり、緊急かつ一時的な生計維持のための貸付を必要とする世帯	新型コロナウイルス感染症の影響を受け、収入の減少や失業等により生活に困窮し、日常生活の維持が困難となっている世帯
貸付上限	学校等の休業、個人事業主等の特例の場合、20 万円以内 その他の場合、10 万円以内	（二人以上）月 20 万円以内 （単身世帯）月 15 万円以内 貸付期間：原則 3 月以内
据置期間	1 年以内	1 年以内
償還期限	2 年以内	10 年以内
貸付利子	無利子	無利子

イ) 特例貸付申請件数

単位：件

	緊急小口資金	総合支援資金	総合支援資金延長	総合支援資金再貸付
4 月	2	8	8	2
5 月	2	1	4	1
6 月	3	6	1	2
7 月	5	6		4
8 月	6	6		9
9 月	11	5		5
10 月	2	4		4
11 月	5	3		10
12 月	4	1		3
1 月	3	5		
2 月	4	5		
3 月	2	3		
合計	49	53	13	40

ウ) 特例貸付貸付額

◆緊急小口資金特例	49 件	8,510,000 円
◆総合支援資金特例	106 件	54,790,000 円

(5) 緊急食料支援件数

フードバンク信州(ななせ仲まち園)は、乳児用のおむつやミルクの支援を中心に注文しました。

○食料支援

支援者	支援世帯数	延支援回数
フードバンク信州 (ななせ仲まち園)	2	8

(6) 緊急一時食料支援事業(フードサポートとうみの縁)

令和2年5月以前に行っていた緊急食料支援事業は、本事業に移行しています。令和3年度は食料の寄付を募るため、東御市内の従業員が50名以上いる事業所に事業所内のフードドライブ協力の呼びかけを行いました。その内の8社が協力希望の返事をいただきました。市内6郵便局と協働して行っているフードポストは本事業の終了まで継続することになりました。令和3年度の月々の平均利用者延人数は約50名以上が利用し、多くの食料支援を必要としている人がいることが分かりました。来年度から一時的な事業から恒常的な事業へ移行します。

○利用者実人数 117人

○利用者延人数

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	R4. 1月	2月	3月	合計
人数	45	41	46	58	46	60	43	48	57	53	49	59	605

○寄付受付者延人数

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	R4. 1月	2月	3月	合計
人数	14	15	10	5	28	18	24	25	41	11	24	9	224

○食料在庫量(寄付、寄付金、事業費から購入)

食品…2,672kg(レトルト食品、即席めん、缶詰等)

米…2,666kg

○食料品購入金額 469,982円

4. 結婚相談事業

340,475円

新型コロナウイルス感染状況への配慮及び使用施設の貸出が中止されたこと等により、開設を中止した期間がありました。ただし、コロナ禍においても相談を希望する登録者が多くいることから、相談員による個別の電話相談等を随時実施しました。

(1) 相談状況 相談員 5人

- ・相談日 毎週日曜日 午前9時～正午
- ・相談場所 中央公民館 学習室

開催日数	相談件数	相談登録者数	お見合い件数	結婚成立件数
32日	延 75件	168人 (男性129人、女性39人)	6件	0件

(2) 東御市結婚活動支援実行委員会

- ・結婚相談員（会長）と社協事務局担当者が実行委員として参加

11月14日（日）に上田地域定住自立圏が主催した婚活イベント（東御市芸術むら公園）について、同実行委員会として内容の検討及び振り返りを実施。

(3) 4市町村結婚相談員連絡会事業（東御市、長和町、青木村、立科町）

- ・4市町村との結婚相談員連絡会及び情報交換会

年間（毎月開催※コロナ禍により中止あり）7回 参加人数 延28人

5. 地域生活課題解決に向けた地域づくり・ネットワークづくり・グループ支援

長野県共同募金会の助成事業等を活用し、相談者や地域社会とのつながりが薄く地域社会に居場所や役割が少ない人など、人とのつながりの中で自立に向けた歩みができるよう、地域社会で支え合う仕組みづくりと発信を行いました。

また、まいさば東御で把握した多様な地域生活課題について、関係機関・事業所・市民と共に組織やネットワークづくりを通じて、課題の共有化と改善に向けて取り組みました。

(1) 子どもだれでも居場所づくり事業 通称：「くるme」

（赤い羽根「新型コロナウイルス感染下の福祉活動応援全国キャンペーン」助成）

市内社会福祉法人と公益財団法人の協働により、各種相談機関など関係機関が声掛けを行い、世代を超えて、親子や青年から高齢者、学生、市民ボランティアが協働し、誰もが役割を持ち、自己肯定感や人とのつながりを創出し、安心できる居場所づくりを行いました。スタッフについては、市内の不登校の支援を行っているふれあい教室の生徒や参加者が活動する日もありました。新型コロナウイルス感染症拡大の影響や体験活動の充実のため、夏季は屋外活動を中心に、冬季は北御牧公民館や福祉センターで実施しました。令和3年度は月1回の開催でしたが、令和4年度からは試験的に月2回の開催を考えています。

○活動実績

実施日	全参加人数	スタッフ	大人	子ども	世帯数	場所	内容
4月29日	64	13	18	33	15	総合福祉センター	雨天のため、弁当配布のみ
5月23日	78	31	18	29	17	芸術村公園	カヤック・外遊び・くす玉作り 弁当配布
6月27日	74	26	19	29	18	芸術村公園	カヤック・外遊び・色水のワークショップ 弁当配布
7月22日	78	26	18	27	16	芸術むら公園	カヤック・外遊び・色水のワークショップ 弁当配布
8月28日	65	6	23	36	15	総合福祉センター	コロナウイルス感染症拡大の為 弁当配布のみ
9月23日	65	25	16	25	19	芸術むら公園	カヤック・外遊び・秋祭り 弁当配布
10月16日	62	23	13	22	14	芸術むら公園 テニスコート	カヤック・外遊び・歓談・屋外調理 弁当配布
11月27日	58	23	13	22	12	北御牧公民館	外遊び・屋内遊び・歓談・ 絵のワークショップ・弁当配布
12月25日	72	24	19	29	17	総合福祉センター	屋内遊び・外遊び・歓談・ 餅・豚汁の振舞
1月22日	50	5	19	29	13	総合福祉センター	コロナウイルス感染症拡大の為 弁当配布・近況確認

2月26日	67	6	25	36	19	総合福祉センター	コロナウィルス感染症拡大の為 弁当配布・近況確認
3月26日	57	20	16	21	14	ケアポートみまき	外遊び・紙相撲ワークショップ 歓談・弁当配布
合計	800	235	217	348	189		

○その他活動

実施日	場 所	内 容
令和3年 11月13日	オンライン	長野県社会福祉協議会が主催して行われた「ふっころフェスティバル 2021」において、映像での事例紹介を行った。参加者のインタビューなど活動について周知を行うことができた。
令和3年 9月～12月 全4回	中央公民館	こども・家庭支援準備室の「居場所づくり」に関する会議に協力し、市内の子ども居場所の在り方について情報提供と協議を行った。

(2) 仕事・生活サポーター事業

自立相談支援事業の相談者やその子どもに、オーダーメイドの支援をするために、市民に支援員（サポーター）登録について依頼をしました。令和3年度は、主に就労準備支援事業に関わる相談者を対象にし、就労準備支援事業のサポートも行いました。

○実績数

利用者数	利用回数	サポーター数	支援 内容	孤立防止	生活・社会自立 意欲喚起	就労自立 意欲喚起
4人	33回	3人		4	4	3

(3) 多頭飼育にかかわる課題解決とチーム支援 計5回

動物の多頭飼育により、生活環境や地域住民との関係性について課題を抱えている世帯や人の支援を進めるために、保健所、動物愛護センター、NPO法人、市行政の担当課、長野県社協などと、解決にあたる支援会議や研修会の開催を実施しました。

内 容	個別事例に対する チーム支援会議	チーム支援の在り方 とセミナー開催会議	動物の飼いかた セミナー開催
回 数	3回	1回	1回
参加機関（参加者数）	6機関（8人）	6機関（9人）	5機関（16人）

(4) 東御市「多様な地域連携による就労支援」ワークショップ

厚生労働省「令和3年度生活困窮者及びひきこもり支援に関する民間団体活動助成事業」による「多様な地域連携による就労支援：現状把握と活動評価のPDCA」（主催：公益社団法人ユニバーサル志縁センター）事業の一環で実施しました。2回のワークショップで関係者と当事者を含めた話し合いを行い、東御市地域の就労支援の取組みの課題や方向性について共有しました。

<実施したワークショップ>

日 時	第 1 回 令和 3 年 12 月 22 日	第 2 回 令和 4 年 1 月 25 日
内 容	・就労支援のニーズがある人は？ ・どんな就労支援の取り組みがあるとよい？	・就労支援のニーズがある人は？（前回の補充） ・どんな就労支援の取り組みがあるとよい？（前回の補充） ・就労支援を通してどんな変化が生まれるとよい？実現したい状態は？
参加者数	34 人 ○ 相談支援係（まいさぼ東御） 5 人 ○ その他 29 人	26 人 ○ 相談支援係（まいさぼ東御） 5 人 ○ その他 21 人
意 見	<支援を必要とする人のニーズ> 人間関係・職場環境・自信がない（不安感）・孤立・モチベーション・性質・適性（ミスマッチ）・家族のケア・病気や健康不安・障がいや高齢・社会的な弱者・困窮・交通手段・家庭環境・長期離職 <必要とされる活動> 相談者の状況にあった適切な相談支援・就労準備や多様な働き方のメニューを増やす・就労意欲の向上やキャリアの形成（模索・形成を見通す）支援・スキルの向上や課題解決等に関する支援・安心して働き続けられる支援 <東御市地域全体の今後について>住みやすく働きやすい東御へ 職場や市民の理解の広がり・トップも変わる・機関連携強化・行動が活発になると地域活性化がすすむ・農業の荒廃地が減る・移住者が増える	

※2回の参加者の感想・提案事項

- ・広い周知は、協力企業や団体が増える、受け入れ体制をより整えることが出来る。
- ・就労について東御市内でどのような連携をするのか見えてきた。
- ・就業までのサポートだけではなく、その後も継続的なサポートが必要な人が多いことを実感し、受け入れ企業、まいさぼ東御、家族などが連携し、継続して働ける（働いてもらえる）場所を整えて軌道に乗せることが必要。
- ・一般的・制度的なニーズと同時に対象者個別の事情の理解が重要であり、多様な背景を持つ人たちがいる中、双方で理解しあい努力しないと解決できない課題が多い。
- ・学校に行くことだけではなく、ひきこもって社会との関係を切ってしまうような支援を小中学校の過程で支援する必要を改めて感じた。周囲の多くの人（特に大人）のかかわりが大切。

<多様な働き方を進めるためのプログラム作成>

日時	令和 4 年 2 月 17 日	令和 4 年 2 月 25 日	令和 4 年 3 月 11 日
内容	働く場を利用した就労支援プログラム作り（助言）	働く場を利用した就労支援のチラシづくり	働く場を利用した就労支援のチラシづくり
参加者数	7 人 （農業事業所含む）	4 人 （農業事業所含む）	4 人 （農業事業所含む）

＊今後の取組みについて

今回、モデル的に取り組んだ農業事業所の就労支援プログラムを、来年度以降は、他の協力事業所の取組みについても運用をする。

(5) 身寄りのない人・単身者の人の支援

まいさば東御や各種相談機関には、身寄りのない人、身寄りがあっても支援が受けられない人、単身で長年にわたり生活をしている人で、住居や入院・入所に関する連帯保証、医療に関する意思決定の支援、金銭管理、死後事務、就学・就労について、多くの課題を抱えて来所する。そこで、東御市福祉課と連携し、当事者同士が集まるグループの立ち上げと、個別のケースについてネットワークを作り、解決する取り組みを実施した。

	自助グループ「はーべすとの会」 (立ち上げ準備含む)	身寄りのない人（個別ケース）の人生の最終段階における課題整理と役割分担会議
会議回数	7回	7回
参加人数	延 32 人	延 28 人

(6) 東御清翔高校との連携事業

東御清翔高校1年生のキャリア教育授業に協力した。子どもの貧困の連鎖を予防する取り組みとして行う。また、支援が必要な世帯や生徒についての連携を行った。

○対象：高校1年生全員 活動日：9月8日、9月15日、9月22日

Ⅲ 地域福祉活動

【地域ささえあい活動の支援・推進】

1. おらほの地域福祉づくり事業

430,000 円

コロナ禍において多様化する地域課題に対し、支部住民が主体となつて行う取り組みに対して、助成金を交付しました。また、支部により福祉的な取り組みを検討する会議等には、要望に応じて職員を派遣し、取り組みの促進を図りました。

＜継続支部＞ 9 支部 260,000 円（8 支部 3 万円・1 支部 2 万円）

支部	取り組み状況	取り組みメニュー
金井	3 年目	いきいきサロンの活性化
西深井	3 年目	災害時支えあい台帳づくり
田中	2 年目	災害時支えあい台帳づくり
大石	2 年目	地域の絆を深める活動
西宮	2 年目	災害時支えあい台帳づくり
東上田	2 年目	地域の見守り活動
寺坂	2 年目	災害時支えあい台帳づくり
宮	2 年目	災害時支えあい台帳づくり
大日向	2 年目	支えあいマップづくり

＜新規支部＞ 6 支部 170,000 円（5 支部 3 万円・1 支部 2 万円）

支部	取り組み状況	取り組みメニュー
桜井	新規	支えあいマップづくり
片羽	新規	支えあいマップづくり
出場	新規	災害時支えあい台帳づくり
田沢	新規	支えあいマップづくり
海善寺北	新規	地域の見守り活動
田之尻	新規	災害時支えあい台帳づくり

2. 支部福祉活動の支援

(1) 支部福祉活動助成金の交付

67 支部 1,945,000 円

(2) 地区別地域福祉懇談会

例年 2 月に実施している地域福祉懇談会を新型コロナウイルス感染症の蔓延状況を考慮し、令和 4 年 4 月に開催時期を延期しました。

(3) いきいきサロン等助成事業

260,080 円

各支部で行うサロン事業に助成を行いました。コロナ禍で実施回数は大幅に減少しましたが、茶会・会食会をふれあい訪問に変更するなどして実施しました。

・実施支部 22 支部 ・総参加者 3,747 人

事業	会食会	茶会	世代間交流	福祉新聞の発行	講演・講習会
回数	27回	69回	1回	10回	1回
参加者数	380人	937人	248人	503人	
事業	課題調査	福祉施設訪問	食事サービス	ふれあい訪問	
回数	0回	0回	4回	17回	
参加者数			150人	1,529人	

(4) 地域活動援助講座

サロンを運営する福祉運営委員やボランティアを対象に、サロンで活用できる料理講習会を、感染予防対策を講じて開催しました。例年調理して試食をしていますが、持ち帰りの対応にしました。3月に2回目を計画しましたが、まん延防止措置が発令されたため、中止としました。参加者からは簡単で美味しくできると好評でした。

○いきいきサロンのための料理講習会 1回

- ・対象者 各区福祉運営委員
- ・講師 東御市食生活改善推進協議会会員

期 日	テーマ	参加者
令和3年12月10日(金)	お正月にちょっと一品	14人

(5) 地域の絆づくり支援事業

- ・レクリエーション用品の貸し出し
ハンドベル、お手玉、輪投げ等ゲーム用具等 33件
- ・支部福祉活動の相談会 19回

いきいきサロンの検討や災害時支えあい台帳の推進方法などをテーマとした支部による会議に職員を派遣しました。特に、コロナ禍に応じたサロンの開催方法の検討や、災害に関する派遣要請が多くありました。

(6) 地域への出前講座 5回

各支部で開催するサロンが感染予防を考慮して中止とする例が多く、出前講座についても依頼が減少しました。

講 座	回数	講 座	回数
介護予防体操（レクリエーション）	2回	エンディングノート	0回
認知症講座	0回	レクリエーション等補助	0回
介護保険の上手な使い方	0回	ようこそ！社協	1回
ボッチャ体験	2回	その他	0回

(7) 福祉運営委員長研修会

39,413円

日 時 令和3年5月22日(土) 午前10時～午前11時30分
場 所 中央公民館3階 講堂
参加者 福祉運営委員長など 37人

- 研修内容 (1) 講演 「感染症の理解を深める」
講師：みまき温泉診療所 医師 齋藤 文護 氏
(2) 事例紹介 「地域福祉活動及びいきいきサロンについて」
(3) 説明 「コロナ禍の福祉活動」

3. 福祉のまちづくり講座「とうみ男の遊び塾」

7月より年4回の実施を検討・計画し、10人から申し込みがありましたが、新型コロナウイルス感染症の蔓延状況を考慮し、開催を中止しました。

4. 終活セミナー

- 日時 令和4年3月6日(土) 13時30分～16時00分
場所 東御市総合福祉センター 研修室
内容 ①エンディングノートについて 講師 社会福祉協議会職員
②遺言・相続について 講師 行政書士 諸野協晴子氏
参加者 13人

5. 介護講座「あった介護教室」

令和4年3月26日(土)に認知症をテーマにした講演会を予定していましたが、コロナの感染状況を考慮し、中止としました。

6. 福祉自動車貸し出しサービス事業

365,528円

- ・登録者 利用会員数 65人
- ・利用延回数 127回(内、福祉移送ボランティア18回)

7. 福祉用具貸与事業

411,667円

貸出物品	備品台数	利用件数
介護用ベッド	64	70
車椅子	82	※142
マットレス・エアマット	59	66
ポータブルトイレ	45	59
その他(歩行器等)	17	14
合 計	267	351

※車いすの利用件数の内、63件は短期間の貸出件数

【 共同募金配分事業 】

1. 高齢者への活動

(1) ひとり暮らし高齢者の福祉サービス

○おせち料理 385,000 円

市内の飲食店に調理委託したおせち料理を、対象世帯へ、民生児童委員の手渡しにより配布することで、年末の安否確認及びつながりを感じられる地域づくり活動の一助として実施しました。

- ・期 日 令和3年12月30日（木）
- ・訪 問 担当民生児童委員 延 58 人
- ・対象者

一人暮らし 高齢者	高齢者 世帯	障がい者 独居世帯	障がい者 世帯	父子家庭	合 計
106 人	8 世帯	9 世帯	5 世帯	2 世帯	130 世帯

(2) 敬老祝賀事業

○金婚祝賀 25,460 円

東御市と東御市シニアクラブ連合会で主催（共催：東御市社会福祉協議会）する金婚祝賀式典において、祝品（慶祝状の額）を贈呈しました。

- ・金婚祝賀式典 令和3年9月16日（木）
- ・該当者 20 組
- ・会 場 中央公民館 講堂

○敬老祝賀 704,000 円

市内の米寿、白寿を迎える高齢者を対象に、敬老祝品（寝具等）を贈呈しました。贈呈については、訪問を希望する対象者には市長と社協会長が訪問させていただき、その他の方は民生児童委員に協力を依頼し贈呈しました。

- ・対象者 合計 218 人（米寿祝 193 人・白寿祝 25 人）
- ・祝賀訪問 47 人 令和3年9月21日～22日

2. 障がい者への活動

(1) 第18回障がい者福祉のつどい 124,711 円

12月3日～12月9日の「障がい者週間」の啓発期間に併せ、市内の関係機関・団体で実行委員会を組織し、障がい児者の抱える諸課題について啓発を行いました。

- ・日 時 令和3年11月20日（土） 午後1時30分～午後3時30分
- ・会 場 中央公民館3階 講堂
- ・参加者 福祉団体関係者、来賓等 147 人
- ・内 容 講演会 「心のバリアフリーにピース!」～ギターと出会った人生～
講師：ギターアーティスト 川崎昭仁 氏

(2) 障がい者社会参加支援事業助成 150,000 円

地域における障がい児者への理解を深め、運動・スポーツを通して障がい児者の社会参加を推進する活動に取り組む『みんなの健康×スポーツ実行委員会（事務局：公益財団法

人身体教育医学研究所)』に助成金を交付しました。コロナ禍における事情を考慮し、例年実施していた行事を一部中止としましたが、感染予防対策を講じてボッチャのクラブ活動を中心に取り組みました。

- ① ユニバーサルスポーツの場づくり「わくわくスポーツクラブ」への支援
 開催期間 令和3年5月～令和4年1月(6回)
 場 所 東御市第2体育館・東御市中央公民館
 参加者 231人
 内 容 『ボッチャ』を中心とした活動
- ② とうみユニバーサルスポーツクラブボッチャ交流大会2021開催支援
 開催日 令和3年10月16日(土)
 場 所 東御市第2体育館
 参加者 12チーム 73名
- ③ ボッチャガイドブック・動画の作成
- ④ 長野県「パラウェーブNAGANOカップ2021」開催支援
 開催日 令和3年12月11日(土)
 場 所 佐久市 県立武道館
 参加者 35チーム(東御市から6チームが参加、審判等スタッフに7名が参加)

3. ボランティア活動

- (1) ボランティア連絡協議会・ボランティア団体活動補助金(21団体)の交付 360,000円
 市内のボランティア団体41団体・個人ボランティア19名が登録している東御市ボランティア連絡協議会の運営経費補助金60,000円と、同協議会に登録し、社会福祉協議会の推進するボランティアの啓発活動を協働して取り組む20団体に15,000円の補助金を交付しました。

- (2) 男性の料理サロン「楽ちん・しあわせごはん」1回 19,912円
 男性に対象者を絞り、誰もが地域に参加し、交流できる環境づくりを目指し、料理サロンを開催しました。全3回の計画でしたが、感染症対策の観点から2回を中止としました。

期 日	テーマ	参加者
令和4年1月15日(土)	手打ちうどん、もち米シュウマイ	12人

- (3) ひとり親家庭交流支援事業 63,731円
 ひとり親世帯を対象に、親子間及び家庭間の交流を深める為、交流会を実施しました。
 - ・期 日 令和3年12月12日 午前10時～午前11時30分
 - ・場 所 中央公民館 講堂
 - ・参加者 15世帯 大人14人 子ども17人 (合計31人)
 - ・内 容 ミニ 謎解きゲーム、親子ふれあいビンゴ大会、ランチのテイクアウト
- (4) 福祉協力校の指定、活動助成(8校) 400,000円
 市内の小中学校・高校8校を対象に、社会福祉への理解と関心を高めるとともに、社会への奉仕や連帯の精神を養う等、福祉教育の推進を図ることを目的として助成金を交

付しました。 ※実績については福祉教育分野に別掲。

4. 社会福祉の啓発

- (1) 社協報「ほほえみ」(ボランティア情報「かわら版」含)の発行 2,178,000 円
・発行回数 年6回 奇数月の1日発行
・発行部数 10,800 部
・編集委員 1 人
- (2) 啓発パンフレットの作成、配布 148,500 円
・「社協のしおり」450 冊
- (3) ホームページ、フェイスブックでの情報発信
[ホームページアドレス URL <http://www.tomisyakyo.or.jp>]
- (4) 介護の日「福祉講演会」の開催 34,503 円
厚生労働省が介護課題を啓発する為に設けた「介護の日」に併せて、介護の日「福祉講演会」を開催しました。
・期 日 令和3年11月6日 午前10時～11時30分
・場 所 中央公民館3階 講堂
・来場者 65 人
・内 容 ◆講 演
「介護課題の社会化を考える」～ヤングケアラーを経験して～
講師 一般社団法人 生活互助支援の会 理事 美齊津 康弘 氏

5. ふれあい交流サロン

- (1) ふれあい交流サロン “おいでよサンサン” 256,500 円
高齢者の生きがいづくりを目的に開催しました。月毎の開催を予定していましたが、感染予防のため、年10回の開催としました。
・開催回数 合計10回(令和3年4月～12月、令和4年3月)
・参加者数 延84人(男:12人・女:72人)

IV 福祉教育、ボランティア活動の推進

1. 福祉教育の推進

福祉協力校として指定した市内の小中学校・高校で取り組んだ福祉教育実践活動は下記のとおりです。各校ともに、感染症予防対策を講じて、福祉施設等との交流や福祉体験学習などに取り組みました。

<活動内容>

学校名	内 容
田中小	パラスポーツ学習、ボッチャ体験、赤い羽根共同募金、SDGs 学習など
滋野小	車いす体験、アイマスク体験、ユニセフ募金、書き損じはがき収集など
祢津小	点字・手話体験、高齢者疑似体験、ユニセフ募金、保育園との交流など
和 小	赤い羽根共同募金、ユニセフ募金、エコキャップ・アルミ缶集めなど
北御牧小	車いすツインバスケット体験、点字・手話体験、アイマスク（対話型鑑賞）体験、赤い羽根共同募金、ペットボトルキャップ集めなど
東部中	赤い羽根共同募金、使用済み切手収集、書き損じはがき収集など
北御牧中	北御牧保育園との交流、福祉教育講演会、小中あいさつ運動、アルミ缶・書き損じはがき・テレホンカード収集、SDGs 学習など
東御清翔高	DIG 体験、子ども塾への協力、本の読み聞かせなど

<福祉体験学習>

学校名	実施回数	講師	ボランティア	延人数	内 容
田中小	1 回	0 名	4 名	76 名	ボッチャ体験
滋野小	2 回	1 名	9 名	80 名	車いす体験、対話型鑑賞体験
祢津小	2 回	1 名	10 名	102 名	点字体験、高齢者疑似体験
北御牧小	4 回	6 名	13 名	122 名	車いすツインバスケット体験、対話型鑑賞体験 点字体験、手話体験
北御牧中	1 回	1 名	5 名	46 名	高齢者疑似体験

2. ボランティア活動の推進

コロナ禍における影響により、ボランティア団体の取り組む活動が制限された傾向にありましたが、音訳・点訳・手話等、障がい者の生活を支援するボランティア活動や災害時を想定したボランティア活動に継続して取り組みました。

(1) ボランティアに関する登録・相談・情報提供・調整の状況

コロナ禍でのボランティア活動の問い合わせが多くありました。

- ・ボランティア団体登録(者)数 80 団体(5,190 人)
- ・くるみの里ボランティアバンク(個人ボランティア)登録者数 74 人
- ・相談者数 3,131 人
(来所 1,275 人・電話 693 人・メール 189 人・訪問 80 人・その他 894 人)
- ・相談件数 ボランティア依頼・受付・相談等 延 6,547 件
- ・ボランティア相談・依頼件数 音訳・点訳・施設ボラ、出前講座等 延 1,069 件

(2) ボランティア活動保険の補助

新型コロナウイルス感染予防のため活動を自粛しているボランティアが多く、保険の加入も例年の半数程度でした。

- ・加入者数 基本プラン 25 人
天災プラン 448 人
- ※保険料補助 天災プラン 473 人(社協負担 210 円) 92,500 円

(3) ボランティア連絡協議会の活動支援

例年、ボランティア連絡協議会と協働し、ボランティア団体の交流を図り、ボランティアの普及啓発に取り組んでいますが、コロナ禍における影響により、例年開催している行事の多くを中止としました。

① 楽しく交流する会 (障がい者とボランティアの交流会)

- ・期 日 令和3年10月28日(木)
- ・場 所 GMOアスリートパーク湯の丸
- ・参加者 52 名
- ・内 容 GMOアスリートパーク湯の丸内の屋内プール及び湯の丸ヴィレッジの見学、アスリート食堂での昼食

※参加定員の縮小、手指消毒等を行いながら開催

② ボランティアセンター研修会【中止】

- ・期 日 令和4年2月5日(土)
- ・場 所 東御市中央公民館2階講義室
- ・内 容 講演「感染症の理解を深める」
講師 東御市立みまき温泉診療所

医師 斎藤文護 氏

※中央公民館2階講義室で、感染予防対策を講じて開催を計画していましたが、長野県内での新型コロナウイルス感染者の増加を受け、講師と調整し中止としました。

(4) 上小ブロックボランティアフォーラム

- ・期 日 令和3年12月11日(土)

- ・場 所 長和町長門町民センター集会ホール
- ・参加者 40 人（上小地区全体） 東御市から 8 人参加
- ・内 容 講演会
演題「元気アップ運動～ボランティアが支える地域の健康～」
講師 国保依田窪病院 理学療法士 山崎健一 氏

(5) 信州発ボランティア・市民活動フォーラム【中止】

- ・新型コロナウイルス感染症予防のため開催中止

3. ボランティアの養成、研修

(1) 夏のボランティア体験教室（サマーチャレンジボランティア）【中止】

- ・期 日 令和 3 年 8 月 7 日（土）
- ・場 所 東御市総合福祉センター1 階ボランティアルーム及び東御市第二体育館
- ・内 容 ユニバーサルスポーツクラブで行っているわくわくスポーツに参加し、ボッチャ体験及び非常食体験

※感染予防対策を講じて開催を計画していましたが、長野県内での新型コロナウイルス感染者の増加を受け、ユニバーサルスポーツクラブと調整し中止としました。

(2) 手話ボランティアスキルアップ講習会 4 回

- ・期 日 令和 3 年 11 月 7 日（日）午前・午後各 1 回…充実コース
令和 3 年 12 月 19 日（日）午前・午後各 1 回…初心者コース
- ・内 容 充実コース 2 回、初心者コース 2 回
- ・参加者 延 21 人
講 師 長野県聴覚障害者協会登録講師 矢野 吉江 氏
本木 理恵 氏

※会場の変更、手指消毒等を行いながら開催

(3) 音訳ボランティア養成セミナー【中止】

- ・期 日 令和 4 年 2 月 22 日、3 月 3 日、3 月 10 日
※延期日令和 4 年 3 月 14 日、3 月 25 日、3 月 28 日
- ・場 所 総合福祉センター ボランティアルーム 1
- ・講 師 元 SBC アナウンサー 大久保智恵子 氏、音訳利用者 両角雪弥 氏
りらの会会員、社協職員

※感染予防対策を講じて開催を計画していましたが、長野県内での新型コロナウイルス感染者の増加を受け、開催の延期をしたが、感染者の増加が止まらず、講師と調整し中止としました。

(4) 音訳スキルアップ講習会 4 回

- ・期 日 令和 3 年 11 月 1 日（月）、11 月 11 日（木）…初級コース
令和 3 年 11 月 29 日（月）、12 月 16 日（木）…上級コース
- ・参加者 延 28 人
- ・内 容 朗読技術向上

- ・講 師 元SBCアナウンサー 大久保 知恵子 氏
- ※会場の変更、手指消毒等を行いながら開催

(5) 災害ボランティア養成講座

令和3年8月に諏訪地域を中心に発生した豪雨・土砂災害において、災害ボランティアセンターを開設した茅野市社会福祉協議会の職員による講座を3月に計画しましたが、感染症対策のため中止としました。

(6) 福祉教育サポーター養成講座

感染予防対策を講じて開催を計画しましたが、長野県内での新型コロナウイルス感染者の増加を受け中止としました。

4. 福祉の森ふれあいフェスティバル

- ・期 日 令和3年10月23日(土)
- ボランティア連絡協議会との協議により、感染症対策のため中止としました。

5. 福祉施設ボランティア担当者連絡会議

- ・期 日 令和3年5月25日(火)
- ・場 所 総合福祉センター1階ボランティアルーム2
- ・参加者 5名
- ・内 容 ボランティア受け入れ状況と課題の把握
- ※感染予防対策を講じて開催

6. ボランティアセンター運営委員会の開催

- ・期 日 令和3年7月19日(月)
- ・場 所 総合福祉センター1階ボランティアルーム1
- ・参加者 14人
- ・内 容 ボランティアセンターの現況と今後の課題について
- ※感染予防対策を講じて開催

V 在宅福祉サービス・支援事業

1. 高齢者支援

- (1) 介護予防事業の運営（市受託） 6,851,258 円

高齢者の閉じこもり・認知症・うつ予防等、要介護状態の予防を目的に、ミニデイサービス及び筋トレ事業を市から受託して取り組みました。新型コロナウイルスの感染状況に配慮し、利用時間を短縮して取り組みました。

介護予防事業	利用実人員	延利用者	実施日数	一日平均
ミニデイサービス（火）～（金）	38 人	1,177 人	186 日	6.3 人
筋トレ教室（月）	16 人	316 人	44 回	7.2 人

- (2) こんにちは訪問事業（安否確認事業）（市受託） 10,935 円

市の利用決定を受けた介護サービスの提供等を受けていない安否確認が必要な一人暮らし高齢者宅に、福祉運営委員等の協力をいただき、定期的に野菜ジュースを届けて安否確認を行いました。

- ・2 支部 利用者実人数 2 人
- ・訪問活動者実人数 9 人
- ・配布本数 198 本

- (3) 寝具洗濯乾燥サービス事業（市受託） 439,924 円

概ね 70 歳以上の高齢者の単身世帯と高齢者世帯等で、寝具類の衛生管理が困難な世帯を対象に、寝具類の洗濯乾燥サービスを実施しました。

- ・実施回数 2 回（6 月・11 月）
- ・利用実人数 51 人
- ・利用者数 延 77 人
- ・利用枚数 149 枚
- ・対象者 寝具の衛生管理が困難な方

- (4) 在宅介護者リフレッシュ事業（市受託） 134,539 円

在宅で要介護高齢者を介護している家族を対象に、心身のリフレッシュ（元気回復）を目的に、介護者相互の交流機会を提供しました。3 月に 3 回目を計画しましたが、まん延防止措置が発令されたため、中止としました。

- ・実施回数 2 回
- ・内 容 健康相談、介護技術講習、健康体操、介護者交流、元気回復等

実 施 日	場 所	参加者
令和 3 年 7 月 2 日（金）	八重原芸術村公園「間」、明神館	4 人
令和 3 年 10 月 28 日（木）	長野市「県立美術館」、善行寺宿坊「淵之坊」	6 人
令和 4 年 3 月 2 日（水）	田中本家、松代壮を計画したが、中止	0 人

- (5) 寝たきり高齢者希望の旅事業 275,044 円

日ごろの外出機会が十分ではない高齢者及びその家族に対する外出支援と参加者同士の交流を目的として、車いす等でも安心して参加できる旅行を実施しました。

- ・期 日 令和3年6月30日（水）
- ・行 先 野尻湖遊覧船乗船、日本土人形資料館、タングラム斑尾東急リゾート
- ・参加者 高齢者10名＋家族介護者1名＋介助ボランティア8名＋職員2名 計21人

（6）家族介護者サロン“太陽の会”交流会

介護者同士の交流の場を設けて、介護者の負担の軽減を図るため交流会を行いました。年3回の予定でしたが、コロナウイルス感染防止のため、2回の実施となりました。

- ・期 日 令和3年5月18日、9月8日
- ・会 場 総合福祉センター ボランティアルーム、喫茶店「すみれ屋」
- ・参加者 延15人

2. 障がい者支援

（1）重度障がい者希望の旅事業 196,074円

重度障がい者を対象に、外出機会の確保を目的として、誰もが安心して参加できる旅行を実施しました。

- ・期 日 令和3年11月30日（火）
- ・場 所 長野県長野市方面（美術館・昼食・工場見学）
- ・参加者 障がい（児）者6名＋家族介護者11名＋
介助ボランティア8名＋職員2名 計27人

（2）視覚障がい者への音訳、点訳サービス支援 374,314円

文字による情報入手が困難な視覚障がい者を対象に、市の広報誌や社協報等の音訳・点訳をボランティアの協力を得て実施しました。

利用者 8人

- ・音訳・・・市報、市報お知らせ版、社協報、他
- ・点訳・・・生涯学習カレンダー、選挙公報、社協報、他

VI 介護保険事業と障害福祉サービス

1. 訪問介護事業（ホームヘルプサービス）

（１）訪問介護・介護予防日常生活支援総合事業（訪問型独自サービス）

要介護又は要支援の認定を受けた方を対象に、訪問介護計画を作成し、ホームヘルパーを派遣して身体介護及び生活援助等のサービスを提供しました。

重度の利用者の入院・死亡や、自宅で介護保険のサービスを利用しながら生活される利用者も減る傾向にあり、利用者が減少しました。

○ホームヘルパー数 6人 ○利用総数 延 291 件

<介護度別 延利用者数>

介護度	要支援 1	要支援 2	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5	合計
令和 3 年度	13	110	54	49	34	2	27	291
割合	3	33	19	17	12	1	10	100
令和 2 年度	23	96	97	71	11	8	30	336

<月別利用者数 要介護 1～5> 利用実人員 16 人

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
令和 3 年度	10	10	11	12	12	13	12	13	13	14	14	12	146
令和 2 年度	23	20	19	18	18	18	18	18	18	18	15	14	217

<月別利用者数 要支援 1・2> 利用実人員 14 人

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
令和 3 年度	11	8	8	10	10	11	11	11	10	10	9	10	119
令和 2 年度	13	11	11	11	10	9	9	9	9	9	9	9	119

<サービス内訳>

サービス名	予防介護		身体介護		身体・生活		生活援助		総合計	
	回数	提供時間	回数	提供時間	回数	提供時間	回数	提供時間	回数	提供時間
令和 3 年度	432	436.5	930	571.5	267	358.5	183	250	1810	1616.5
月平均	36	36.3	77.5	47.6	22.2	29.8	15.2	22.1	150.8	134.7
令和 2 年度	494	519	1,551	1,058	306	412	218	153	2,569	2,142

（２）障がい福祉サービス事業（居宅介護・重度訪問介護・同行援護）

障害支援区分認定を受けた方のうち、介護給付費支給決定を受けた方を対象に、居宅介護等計画を作成し、ホームヘルパーを派遣して身体介護、家事援助及び外出時介助等のサービスを提供しました。

	実利用者数	延利用者数	延利用回数	延提供時間数
令和3年度	11人	106人	874回	1113.5時間
令和2年度	10人	111人	880回	1105.25時間
増減	+1人	-5人	-6回	+8.25時間

(3) 地域生活支援事業（移動支援事業）

障害支援度区分認定を受けた方のうち、社会活動等のための外出に係る支援が必要な方に対し、ホームヘルパーを派遣して外出に係る移動の支援等の必要なサービスを提供しました。

	実利用者数	延利用者数	延利用回数	延提供時間数
令和3年度	7人	62人	360回	365時間
令和2年度	7人	48人	325回	427.5時間
増減	0人	+14人	+35回	-62.5時間

(4) ほほえみサービス事業（自費サービス）

制度外のサービスを希望される方に対し、ホームヘルパーを派遣し希望されるサービスを提供しました。独居・老世帯の方の入院中の洗濯サービス等、制度では対応できないニーズへの対応を図りました。

	実人数	延利用回数	延利用者数	延提供時間	家事援助	通院介助	身体
令和3年度	3人	42回	24人	45.5時間	45.5時間	0回	0回
令和2年度	6人	59回	27人	65時間	65時間	0回	0回
増減	-3人	-17回	-3人	-19.5時間	-19.5時間	0回	0回

(5) 養育支援訪問事業（市委託）

保護者の事由等により養育が一時的に困難となり支援が必要だと判断された家庭に対し、家事支援等の提供を市から受託し、相談等はありませんでした。

<その他の活動>

- ・広報誌「ほほえみ」へのコラム掲載

2. 居宅介護支援事業

市から介護予防支援・介護予防ケアマネジメント支援事業の一部を受託し、要支援認定を受けられた方も、要介護認定を受けられた方も、各種のサービスなどを利用しながら自宅でその人らしい生活ができるよう、本人、家族等に寄り添い、ケアプラン（居宅サービス計画）を作成しました。国の通達より感染拡大予防のため、ケースによって担当者会議（照会）等も書面や電話などを利用し関係機関との連携を図りました。利用者の訪問への不安も、電話での状況把握や玄関先で短時間の訪問など利用者に合わせて対応しました。

また、広域連合からの介護認定調査の受託や、特定事業所加算Ⅱ算定事業所であるため、地域包括支援センターからの対応困難ケースの受け入れにも積極的に取り組み、毎朝のミーティングを行う等ケースの情報の共有を行いました。研修については、オンライン研修

に取り組みました。

○ケアマネージャー人数

5 人

○利用総数

1,934 件

<活動状況>

業 務	介護	介護予防 介護予防ケアマ ネジメント	計
ケアプラン作成総件数（給付管理件数）	1,811 件	123 件	1,934 件
モニタリング訪問件数	2,092 件	45 件	2,137 件
要介護認定調査（広域連合から）	28 件	0 件	28 件
担当者会議開催件数	233 件	5 件	238 件
アセスメント実施件数	233 件	5 件	238 件
事例検討実施件数	11 件	0 件	11 件
対応困難ケース受け入れ件数	7 件	0 件	7 件

<月別居宅サービス計画（ケアプラン）作成件数>

		令和2年度実績	令和3年度実績	増減
延作成件数	介護	1,893 件	1,811 件	-82 件
	介護予防	118 件	123 件	+5 件
月平均	介護	157.7 件	150.9 件	-6.8 件
	介護予防	9.8 件	10.3 件	+0.5 件

<月別居宅サービス計画（ケアプラン）作成件数>

○要介護

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
令和3年度	156	154	150	150	154	154	157	153	147	148	145	144	1,811
令和2年度	144	151	153	159	152	161	165	161	171	164	161	151	1,893

○要支援 介護予防支援・介護予防支援ケアマネジメント支援

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
令和3年度	11	11	11	10	10	10	10	10	10	10	10	10	123
令和2年度	10	8	10	10	10	9	8	10	10	11	11	11	118

<介護度別ケアプラン作成件数>

○要介護

介護度	介護1	介護2	介護3	介護4	介護5	計
件数	731	521	232	225	102	1,811
月平均	60.9	43.4	19.3	18.8	8.5	150.9

○要支援

介護度	支援 1	支援 2	計
件数	60	63	123
月平均	5	5.3	10.3

<研修実績>

月	研 修 内 容 (外部)
5 月	・ケアマネネット 座談会 東御市で使える社会福祉資源の活用について
6 月	・ケアマネネット 事例検討
7 月	・特定事業所連携研修 今後の計画について (ケアポートみまき) ・ケアマネネット 成年後見制度身寄り問題
8 月	・オンライン研修 高齢者のナラテブ (物語) に寄り添うケアと対話の工夫
9 月	・ケアマネネット 介護報酬改定等について (東御市高齢者係)
10 月	・特定事業所連携研修 情報共有・事例検討 (ケアポートみまき・ゆとり) ・上田広域事業者連絡協議会研修 2021 年報酬改定と L I F E への対応 ・グリーン c a r e フォーラム 2022 年に向けた準備と対応 ・ケアマネネット ケアプラン点検の基本
11 月	・ケアプラン点検 ・地域推進会議 東御市の介護保険状況について
12 月	・感染症予防対策について ・高齢者施設等業務継続計画 B C P 策定支援研修 ・第 1 回多職種連携会議 事例検討 (地域で生活を再開するために) ・ケアマネネット ケアプラン点検を終えて
1 月	・オンライン研修 認定調査員現任研修 ・ケアマネネット 事例検討
2 月	・高齢者施設等業務継続計画 B C P 策定支援研修 ・ケアマネネット 事例検討
3 月	・ケアマネネット 令和 4 年度に向けて ・地域ケア推進会議 在宅医療の現状とこれから

<その他の活動>

- ・東御市民間事業所連絡協議会への参加
- ・広報誌「ほほえみ」へのコラム掲載
- ・認知症初期集中支援チーム会議への参加

Ⅶ その他の福祉活動支援

1. 長野県共同募金会東御市共同募金委員会事業

社会福祉法人長野県共同募金会の東御市共同募金委員会を組織し、協働して募金活動等に取り組みました。

(1) 赤い羽根イベント・募金活動

○街頭募金・イベント募金等の実施（原則、各日職員2人により実施）

実施日：場 所	
10月1日（金）道の駅 雷電くるみの里	10月2日（土）道の駅 雷電くるみの里
10月3日（日）道の駅 雷電くるみの里	10月4日（月）デリシア 東部店
10月5日（火）しなの鉄道 田中駅	10月6日（水）ベイシア 東御店
10月7日（木）道の駅 雷電くるみの里	10月8日（金）やおふく 東御店
10月9日（土）火のアートフェスティバル	10月10日（日）火のアートフェスティバル
10月11日（月）道の駅 雷電くるみの里	10月13日（水）道の駅 雷電くるみの里
10月14日（木）ベイシア 東御店	10月15日（金）しなの鉄道 田中駅
10月17日（日）道の駅 雷電くるみの里	10月19日（火）やおふく 東御店
10月21日（木）デリシア 東部店	10月23日（土）道の駅 雷電くるみの里
10月30日（土）道の駅 雷電くるみの里	

○戸別募金・・・行政区ごと支部長へ依頼

○学校での赤い羽根募金の取り組み 市内小中学校6校へ依頼

○職域募金の依頼 東御市役所職員、信州うえだ農協職員、東御市社協職員等

○東御市振興公社 温泉施設へ募金箱設置の依頼

○市内大手スーパー店頭へ募金箱設置の依頼

○市内企業へ企業募金の依頼

○自動販売機募金 道の駅「雷電くるみの里」、湯楽里館、総合福祉センター

(2) 赤い羽根、歳末助け合い共同募金収納結果

◎令和3年度赤い羽根募金収納総額

6,193,547 円

<募金別内訳>

募金の種類	金 額	内 訳
戸別募金	5,745,919	6,402 戸
街頭募金	124,138	計 19 回実施
法人募金	99,000	17 法人
学校募金	25,534	市内 5 校
職域募金	47,708	東御市、社協、JA 信州うえだ東御支所
イベント募金	8,222	火のアートフェスティバル
個人募金	15,783	

その他	127,243	募金箱、繰越金、利子等
収納総額	6,193,547	

(3) 共同募金会からの配分事業

令和3年度の市社協の地域福祉事業へ配分実績 4,646,744 円

(令和2年度の収納額6,410,744円の実績から、東御市への配分金)

<事業別配分内訳>

事業	金額	事業	金額
高齢者	839,000	その他	3,154,133
障害児・者	200,000	合 計	4,646,744
児童・青少年	453,611		

(4) 災害見舞金

・令和3年度の見舞事案はありませんでした。

2. 日本赤十字社事業

(1) 赤十字奉仕団総会（新型コロナウイルス感染予防のため文書審議）

- ・期 日 令和3年5月7日（金）
- ・内 容 令和2年度東御市赤十字奉仕団事業報告及び決算報告について
令和3年度東御市赤十字奉仕団事業計画及び予算について

(2) 日赤活動資金募集会議

- ・期 日 令和3年5月26日（水）
- ・場 所 東御市中央公民館2階 講義室
- ・内 容 日赤活動資金募集に係る事務説明

(3) 日赤活動資金募集総額 ・ 支援者数 5,540 人 ・ 寄付者 51 人 3,987,067 円

(4) 健康生活支援講習会

- ・新型コロナウイルスの影響により中止

(5) 一日赤十字（炊き出し及び救急法講習会）

- ・新型コロナウイルスの影響により中止

(6) 日赤奉仕団視察研修会

- ・新型コロナウイルスの影響により中止

(7) 災害見舞

- ・住宅火災 0 件

3. 被災者義援金・海外救援金

- (1) 平成30年7月豪雨災害（平成30年7月10日～受付中）
令和3年度 0件 110円
（平成30年からの累計 14件 1,366,007円）
- (2) 令和2年7月豪雨災害（令和2年7月7日～受付中）
令和3年度 0件 150,306円
（令和2年からの累計 2件 324,369円）
- (3) 令和3年2月福島県沖地震災害（令和3年2月24日～令和3年5月31日）
令和3年度 0件 30,071円
（令和元年からの累計 0件 64,500円）
- (4) 令和3年8月大雨災害（長野県）（令和3年8月23日～令和4年3月31日）
令和3年度 0件 120,541円
- (5) 令和3年長野県茅野市土石流災害（令和3年9月14日～令和4年3月31日）
令和3年度 0件 31,954円
- (6) ウクライナ人道危機救援金（令和4年3月2日～受付中）
令和3年度 19件 438,804円

4. 社会福祉団体活動の支援

- (1) 福祉団体交流会（ボッチャ） 30,000円
福祉団体会員相互の交流及び情報交換の場の提供及びユニバーサルスポーツを通じた「誰もが幸せを感じられるまちづくり」の推進を目指し、ボッチャ競技を通じた交流会を実施しました。
・日 時 令和3年6月7日（月） 午前8時30分～正午
・会 場 東御市第2体育館
・参加者 福祉団体関係者、審判員、来賓等 81人
・内 容 体操、ボッチャ、表彰式ほか交流
- (2) 福祉団体活動補助金 1,130,000円
○身体障害者福祉協会 320,000円
○シニアクラブ連合会 100,000円
○遺族会 530,000円
○更生保護女性会 60,000円
○保護司会 120,000円
合 計 1,130,000円